

徳島県鳴門市・阿南市間海岸での 安政南海地震(1854)の津波分布

都司嘉宣¹・都司雅子²

¹地震津波防災戦略研究所, ²無所属

§ 1. 安政南海地震の紀伊水道海岸の津波分布

安政元年 11 月 5 日(1854XII24)に起きた安政南海地震による津波の徳島県紀伊水道海岸での津波の調査を行った。調査範囲と調査の結果得られた津波の浸水、または遡上高(m)は図1の通り。

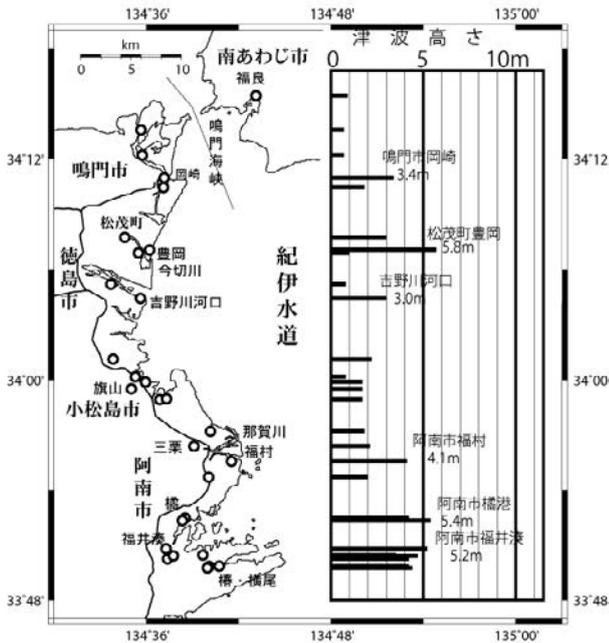


図1 安政南海津波の調査範囲と浸水・遡上高さ(m)

§ 2. 鳴門市林崎立岩

鳴門市岡崎の妙見山の小丘の南側神依岩という露岩がある(図2)。これが「立石」であって、これに関して次の記録がある。

『異事時変説(川東村蔵)』(M4-373)
撫養岡崎の御屋敷も(海嘯で)潰家となり、林崎立岩まで津浪入る

この記事によってここでの遡上高 1.8m を得た。

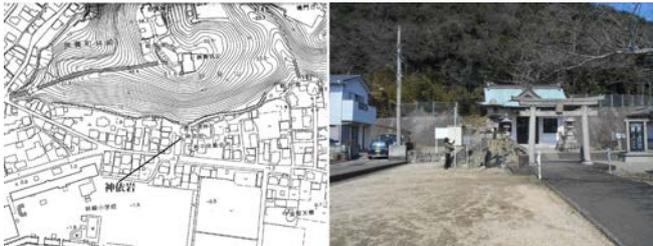


図2 鳴門市林崎の神依岩

§ 3. 小松島市旗山

小松島市の海岸線から 1.5km のところに旗山という小丘がある。『異事時変説』(海部郡川東村蔵)に南方田野旗山、金磯新田、和田津新田大破損。

田野旗山迄海嘯打懸也
と記されている。旗山の東端山裾の標高を測定して浸水高 1.7m を得た。和田津新田の豊浦神社の「ここに逃げかろうじて助かった」の伝承から 1.7m を得た。



図3 小松島市田野の旗山、および和田津新田

§ 4. 阿南市出島工(たくむち)野上神社跡

[平島村史] (M4-375) に「出島工地の松原から波浪は溢れ溢れて工地の野上神社の境内へ大鱸(すずき)が打ち上がって居た」の記載がある。野上神社は現存せず、湯浅宗男氏の御教示によってそのあった場所が確定した(図4)。地面標高 1.5m、津波浸水高 1.8m を得た。



図4 阿南市出島工地の野上神社跡浸水点

謝辞: 阿南市那賀川町工地上福井にお住いの湯浅宗男様、阿南市福井町大西にお住いの栗田正治様には、各地域での詳しいお話を伺うことができました。両氏に感謝いたします。